

筑紫国は遐く邇くもうでいたる所、去来の関門とする所なり

第3回福岡市史講演会

古代の対外交流と福岡

筑紫・那津官家・鴻臚館

日時／平成十九年八月二十五日(土)午後二時～五時

会場／福岡市博物館一階講堂

入場無料／事前申込み不要(定員先着二三〇名)



▲ 比恵遺跡 第8次・72次調査区
比恵遺跡 復原想像図 ▶



▼ 鴻臚館跡展示館内復原建物



講演

午後2時

「5・6世紀の日韓交流と筑紫」

東北学院大学教授 熊谷公男

講演

午後3時10分

「発掘調査から見る鴻臚館」

福岡市教育委員会 大庭康時

講演

午後3時50分

「大宰府機構と鴻臚館」

太宰府市市史資料室 重松敏彦

④「入唐五家伝」

割引引換券

鴻臚館跡発掘20周年記念特別展 古代の博多—鴻臚館とその時代—

- 本チラシを本展チケット売場へお持ちください。
- 本チラシ1枚につき1名、右記割引料金でご入場いただけます。
- 他券との併用はできません。

一般	1,200円→1,100円
高校・大学生	800円→700円

福岡市博物館

シーサイドももち・福岡タワー南
住所 福岡市早良区百道浜3丁目1-1
TEL 092-845-5011
HP <http://museum.city.fukuoka.jp>

今秋開催

鴻臚館跡発掘 20周年記念特別展 古代の博多 「鴻臚館とその時代」

平成十九年は旧平和台球場で鴻臚館跡の発掘が開始されてから、二十年の節目を迎えます。これまでの調査で施設の規模や構造などが次第に明らかになり、多くの対外交流を示す品々が出土しました。福岡は自然の良港に恵まれ、奴国の時代より対外交流の玄関口として、さまざまな文化や人々が往来する場所でした。古代、この地に置かれた鴻臚館には内外の外交使節や商人が数多く滞在しました。本展覧会では鴻臚館の調査成果とともに、鴻臚館を行き来したひと・もの・文化を通じて、日本とアジアを結んだ鴻臚館とその時代を紹介します。



⑤ 鴻臚館式軒平瓦

主催	福岡市博物館・読売新聞西部本社・NHK福岡放送局 中華人民共和国駐福岡総領事館・駐福岡大韓民国 総領事館・(財)福岡市文化芸術振興財団
後援	福岡市博物館特別展示室A・B
会場	平成19年9月14日(金)～10月28日(日)
会期	午前9時30分～午後5時30分(月曜休館、祝日の場合は 翌日が休館、入館は5時まで)
観覧料	一般1200円(1000円)、高大生800円(600円) 小中生無料(～内は20人以上の団体及び前売料金)

▼ 鴻臚館跡出土越州窯青磁花文碗



⑦



⑥

交通案内

市営地下鉄

西新駅下車(1番出口)徒歩15分

西鉄バス

博多駅交通センター(5番のりば)より約35分
天神バスセンター前(1Aのりば)より約20分
博物館北口、博物館南口または福岡タワー南口下車すぐ

福岡市博物館

シーサイドももち・福岡タワー南

住所 福岡市早良区百道浜3丁目1-1
TEL 092-845-5011
HP <http://museum.city.fukuoka.jp>

講師紹介

熊谷公男



東北学院大学教授。福岡市史編集委員会古代専門部会専門委員。一九四九年生まれ。宮内庁正倉院事務所を経て、現在に至る。専門は日本古代史。古代の政務、儀礼・蝦夷の問題などを通して、古代王権の姿を追求する。主な著作に『日本の歴史3 大王から天皇へ』(講談社)がある。

大庭康時



福岡市教育委員会文化財部文化財整備課。一九五八年生まれ。専門は日本考古学。博多遺跡群・鴻臚館跡などで多くの対外交流を語る上で欠くことのできない遺跡の発掘調査にあたり、新知見をもたらす。主な著作に『中世都市研究10 港湾都市と対外交渉』(共編/新人物往來社)がある。

重松敏彦



太宰府市市史資料室。福岡市史編集委員会古代専門部会副部会長。一九六〇年生まれ。専門は日本古代史。長年、古代の大宰府研究に取り組み、その構造や対外交流における役割を積極的に検証する。主な著作に『大宰府古代史年表』(吉川弘文館)がある。



写真提供 ①福岡市埋蔵文化財センター、②福岡市史編集委員会、③⑤⑥⑦福岡市教育委員会文化財部文化財整備課、④九州大学附属図書館

鴻臚館跡出土青磁褐彩水注